

化学反応開発における顕著な功績を表彰する 「鈴木章賞」を創設 ～ 2021年 初代受賞者を発表 ～

ICReDD Award 受賞者
David J. Wales
Professor of Chemical Physics
ケンブリッジ大学

Akira Suzuki Award 受賞者
Stephen L. Buchwald
Camille Dreyfus Professor of Chemistry
マサチューセッツ工科大学

The banner features two portraits: David J. Wales on the right and Stephen L. Buchwald on the left. A large, wavy, multi-colored ribbon (yellow, orange, red, pink) flows across the center. Chemical structures are shown: a benzene ring with a nitrogen atom and two substituents (R₁, R₂) on the left, and a molecular structure with red and white spheres on the right. A circular cluster of atoms is also visible.

北海道大学 化学反応創成研究拠点 (ICReDD)
鈴木章賞組織委員会

鈴木章ユニバーシティプロフェッサー 2010年ノーベル化学賞受賞から10年

- 鈴木 章ユニバーシティプロフェッサー/名誉教授の
2010年ノーベル化学賞受賞から10周年
- 同・鈴木先生(1930年9月12日生) が卒寿を迎えられた記念として

化学反応創成研究拠点 (ICReDD) により「鈴木章賞組織委員会」を立ち上げ、東ソー株式会社からの協賛のもと「鈴木章賞」を創設。

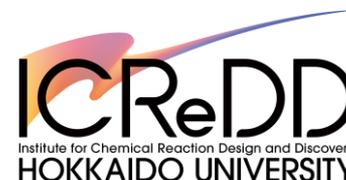
化学反応開発の進歩に顕著な業績をあげた研究者の貢献を表彰することにより、科学技術の発展に寄与することを目的とする。

※2020年9月12日（鈴木章先生90歳誕生日）に受賞式を計画、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大により、創設、授賞式を2021年まで延期。

2021年10月スケジュール再始動

北海道大学化学反応創成研究拠点 Institute for Chemical Reaction Design and Discovery (ICReDD/アイクレッド)とは

- 文部科学省 国際研究拠点形成促進事業費補助金
「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」に採択
2018年10月 本学に設置
- 高度に国際化された研究環境と世界トップレベル水準の研究を行う国際研究拠点が
日本国内に14箇所設置され、ICReDDはその一つ (2021年12月16日現在)
- ICReDDでは、計算科学、情報科学、実験科学の3分野を融合させることにより、
新しい化学反応をより深く理解し効率的に開発することを目指している。



● 鈴木章先生の社会的貢献

2010年 ノーベル化学賞受賞

鈴木 章 ユニバーシティプロフェッサー/名誉教授

- 有機ホウ素化合物のクロスカップリング反応に関する研究に関する受賞
- 受賞対象となった鈴木カップリング反応は、極めて実用性の高い合成反応として世界中で広く認知
- 医薬品や液晶材料など、高い機能をもつ有機分子の合成に広く利用

協賛社・東ソー株式会社と鈴木先生

東ソー株式会社

クロスカップリング反応を利用して電子材料（液晶・有機EL）
/半導体材料（レジストモノマー）を製造するリーディング企業

- ・ 2008年-2019年
鈴木先生が東ソーグループの技術アドバイザーを務める。
- ・ 研究開発指導に加え、東ソー株式会社の情報発信活動
（リクルート資料, CSRレポート, 共著専門書作成等）に貢献。

→ 鈴木章賞に協賛



(写真：北海道大学総務企画部広報課)

●Akira Suzuki Award :

実験化学分野において顕著な業績を収めた者

●ICReDD Award :

計算(理論)・情報科学分野において顕著な業績を収めた者

賞の設立, 授賞による社会的意義

●Akira Suzuki Award :

鈴木章先生の功績を称え、その名を冠する賞を設立することで、

化学反応開発における学術向上に寄与する

●ICReDD Award :

ICReDDが先導する「理論・情報科学」によって化学反応開発の進歩に貢献した研究者を表彰することで、

ICReDDを世界から, “さらに“目に見える拠点とする

●これら2つの国際的な賞をICReDDから表彰することで、

本学から世界へ向けた発信力を強化する

現役世代でノーベル賞級の研究者に 授与する賞として設立

賞金は、Akira Suzuki Award, ICReDD Award
共に10,000米ドル

(* ICReDD 主任研究者)

鈴木章賞 組織委員会

委員長: 澤村 正也 (北海道大学 教授*)
副委員長: 武次 徹也 (北海道大学 教授*)
伊藤 肇 (北海道大学 教授*)
佐藤 美洋 (北海道大学 教授)
前田 理 (北海道大学 教授* /ICReDD拠点長)
小松崎 民樹 (北海道大学 教授*)

Akira Suzuki Award 選考委員

[実験化学分野]

澤村 正也 (北海道大学 教授*)
伊藤 肇 (北海道大学 教授*)
佐藤 美洋 (北海道大学 教授)
リスト・ベンジャミン (マックス・プランク石炭研究所 所長
/北大特任教授*)
ジェミソン・ティモシー (マサチューセッツ工科大学 教授)
ブライト・バーンハード (フライブルク大学 教授)

ICReDD Award 選考委員

[計算(理論)/情報科学分野]

武次 徹也 (北海道大学 教授*)
前田 理 (北海道大学 教授* /ICReDD拠点長)
小松崎 民樹 (北海道大学 教授*)
長谷川 淳也 (北海道大学 教授*)
佐藤 啓文 (京都大学 教授)
ルビンスタイン・マイケル (デューク大学教授*)
ヴァーネック・アレクサンドル (ストラスブール大学教授*)



(第1回 ICRReDD国際シンポジウム @北大FMIホール 2019年3月)

2021年ノーベル化学賞受賞

リスト・ベンジャミン 特任教授

- ・ 2018年 ICRReDD設立当初からICReDDに参画
- ・ ICRReDDリストグループ主任研究者

- 不斉有機触媒の開発に関する研究による受賞
- プロリンを用いた不斉アルドール反応は、
不斉有機触媒の分野の草分け的研究として世界中で広く認知
- より安定・安価で環境にもやさしい有機分子触媒は、
今では医薬品などの合成にも広く利用



(Copyright: Nobel Prize Outreach,
Photo:Bernhard Ludewig)

選考委員を務める ICReDD海外主任研究者



リスト・ベンジャミン
(独 マックス・プランク石炭研究所 所長)
Akira Suzuki Award 選考委員
* 2021ノーベル化学賞受賞



ルビンスタイン・マイケル
(米 デューク大学教授)
ICReDD Award 選考委員



ヴァーネック・アレクサンドル
(仏 ストラスブール大学教授)
ICReDD Award 選考委員



●本日の発表に至った経緯

鈴木章賞組織委員会の立ち上げ～今日まで

2020年

- ①組織委員会の開催（1月21日）
- ②選考委員の決定・依頼（2月3日）
- ③選考委員によるノミネート（2月20日締め切り）
- ④選考会議、**受賞者への受賞内定通知**（3月9日） *情報解禁はまだ
- ⑤9月12日 北大にて開催の国際会議TACC2020にて、
鈴木章賞授賞式と受賞者講演（@鈴木章ホール）開催予定 →**延期**

2021年

- ⑥10-11月 **新型コロナウイルス感染症の感染減少傾向を鑑み、再始動**
→受賞者をICReDDのWebサイトで公開（11月2日） *情報解禁
- ⑦12月 授賞式・受賞者講演の日程確定のタイミングでプレスリリース（12月8日）
記者会見のタイミングにて賞の詳細を本日発表（12月16日）
- ⑧2022年3月12日～13日 第4回ICReDD国際シンポジウム@米国デューク大学
にて授賞式・受賞者講演（予定）

スティーブン バックワルド
Stephen Buchwald教授（米国マサチューセッツ工科大学）：

クロスカップリング反応に用いる触媒の反応効率を格段に向上させる触媒配位子「Buchwald配位子」を開発。これにより、創薬・材料開発の産業に貢献。また、医薬品製造において鈴木カップリング反応に並び、頻繁に使用される炭素-窒素クロスカップリング反応の開発者。

1955年生，66歳

炭素-炭素結合や炭素-窒素結合の形成を可能にする触媒の創製，生理活性分子の合成と化学修飾の方法が専門。

学歴：1982年 米国ハーバード大学 博士号

職歴：1982-1984年 米国カリフォルニア工科大学 博士研究員

1984年 米国マサチューセッツ工科大学 助教

1989年 同 准教授

1993年 同 教授

1997年 同 カミーユ・ドレイファス化学教授

主たる業績・受賞等：

2019年 ウルフ賞化学部門 他，多数受賞



デビッド ウェールズ

David Wales教授（英国ケンブリッジ大学）：

化学反応をポテンシャルエネルギー曲面の形状に基づいて理解するエネルギーランドスケープ理論の構築に先駆的な貢献を果たすとともに、クラスターや高分子鎖の構造転移などにおいてその有用性を示された。これにより、タンパク質の折りたたみ過程の解明が進むなど、化学反応の理解が大きく前進した。

1963年生，58歳

エネルギーランドスケープの確立とその展開が専門。

学歴：1988年 英国ケンブリッジ大学 博士号

職歴：1989年 米国シカゴ大学 博士研究員

1990年 英国ケンブリッジ大学ダウニング・カレッジ研究員

1991年 英国ロイズオブロンズン創立300周年記念フェロー

1991-1998年 英国王立協会大学フェローシップ

1998年 英国ケンブリッジ大学講師

2008年 同 教授

主たる業績・受賞等：

2016年 英国王立学会フェロー

2020年 フンボルト研究賞 他，多数受賞



Akira Suzuki Award受賞者: S. Bachwald 教授

“Thank you to you and your colleagues for this great honor that I am pleased to accept.

It is all the more special as it is in recognition of the great Professor Suzuki. I look forward to hearing about the details and to visiting Hokkaido.

Steve”



このような素晴らしい名誉を与えてくださった皆様に感謝いたします。
偉大な鈴木先生の功績を称えられたことで、さらに特別なものとなりました。
北海道に行って、詳細が聞けることを楽しみにしています。

ICReDD Award 受賞者： D. Wales 教授

“Many thanks for this news - I am delighted to accept the 1st ICReDD Award. I will do my best to deliver a suitable lecture for the occasion.

I would just like to express my gratitude again. It is always a great pleasure to visit friends and collaborators in Japan, and I am really looking forward to coming to Sapporo.

David”



第1回 ICReDD Award を受賞することができ、大変嬉しく思います。授賞式に際しては、ふさわしい講演ができるように頑張ります。改めて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。日本の友人や共同研究者を訪問することは、いつも大変喜ばしく、札幌を訪れることをとても楽しみにしています。

私の名前を冠したこの賞が、澤村教授を委員長とする組織委員会と東ソー株式会社のご支援により創設されたことを光栄に思います。

この記念すべき第1回目の年に「鈴木章賞」を受賞された皆様の高い業績を称え、お祝いを申し上げます。

厳正な選考を経て選ばれたお二人の先生方に共通するのは、分野を問わず研究に精進し、社会に貢献するために最善を尽くす姿であり、まさに若い世代のロールモデルと言えるでしょう。

皆様が今後も精進努力と独創的な研究を続けられ、将来に向け発展し、科学技術のさらなる発展に貢献されることを強く願っております。

今後も「鈴木章賞」は、先生方の優れた業績を称える機会として継続されることを期待しております。

授賞式および受賞講演会：

2022年3月12日－13日

@米国デューク大学（ハイブリッド開催予定）

第4回ICReDD国際シンポジウム

お問い合わせ：office@icredd.hokudai.ac.jp

<https://www.icredd.hokudai.ac.jp/ja/akira-suzuki-awards>

